



# シングルレバー 混合栓

## 取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。  
この取扱施工説明書は、別紙「安全上のご注意」とあわせてご使用ください。

このたびは、シングルレバー混合栓をお買い求めいただき、  
まことにありがとうございました。

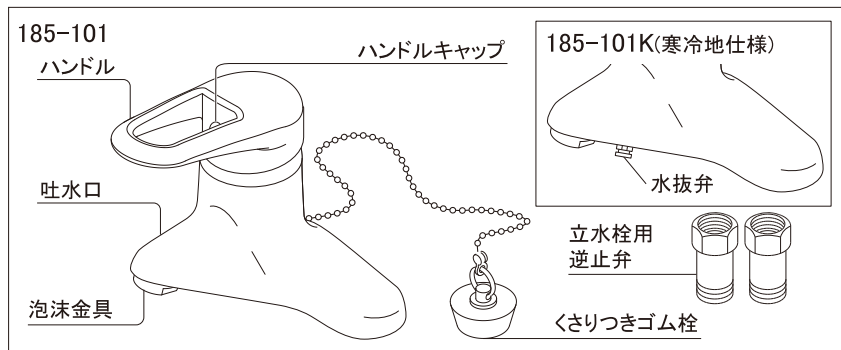
## 製品同梱明細

■施工される際は、この取扱施工説明書の製品同梱明細で各部材をご確認ください。

品番	取付穴径 (mm)	本体	立水栓用逆止弁
185-101	φ22~26	○	○
185-101K	φ22~26	○	—
185-201	φ22~26	○	○
185-201K	φ22~26	○	—

\* 上記部材に加えて、  
●取扱施工説明書 ●安全上のご注意 ●保証書 ●六角レンチ(対辺2.5ミリ)を同梱しています。

## 各部のなまえ

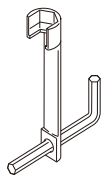
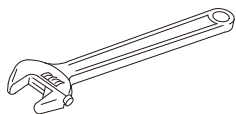


\* 表記イラストは代表品番です。品番によっては図と製品の形状が一部異なります。

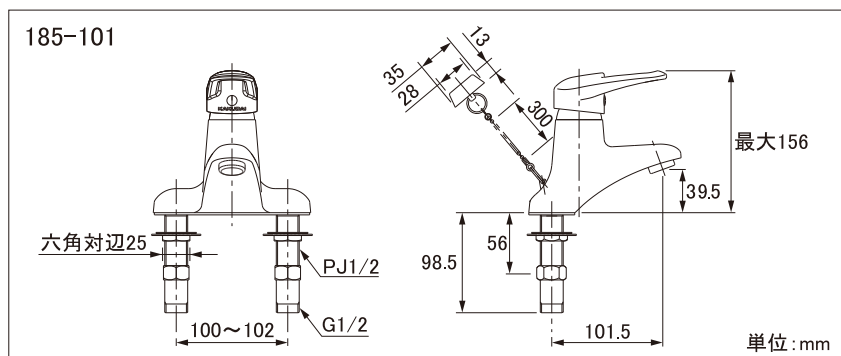
## 施工に必要な工具

●モンキーレンチ

●立カラン締め



## 寸法図

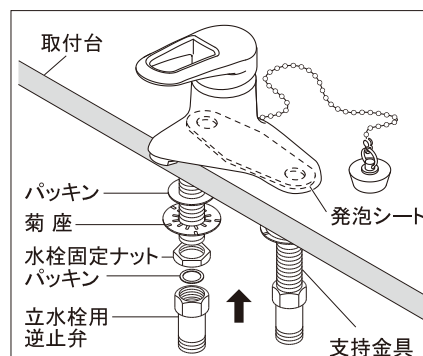


\* 表記寸法図は代表品番です。品番によっては図と製品の形状・寸法が一部異なります。

## 取付方法

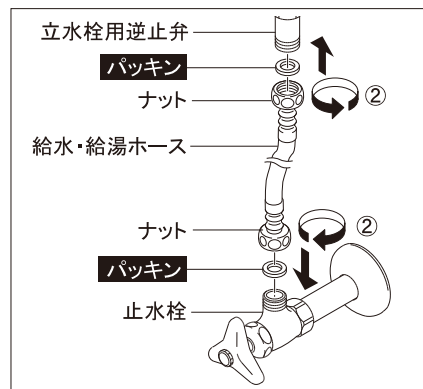
\* 数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を開けて取付作業を行ってください。

### 1. 混合栓本体を取付けます。



- ① 支持金具より水栓固定ナット・菊座・パッキンを取外し、本体底面に発泡シートが貼付けられているのをご確認ください。
  - ② 混合栓本体を取付台に差込みます。
  - ③ パッキン・菊座の順で支持金具に差込み、水栓固定ナットを「立カラン締め」などでしっかりと締付けます。
  - ④ 立水栓用逆止弁を支持金具に取り付け、「立カラン締め」などで締付けます。
- \* 寒冷地仕様の場合は立水栓用逆止弁が同梱されておりませんので、この手順は必要ありません。  
\* 立水栓用逆止弁には湯用・水用の指定のある機種があります。ご注意ください。

### 2. 止水栓と接続します。



- ① パッキンを給水・給湯ホースのナットにはめ込みます。
  - ② 給水・給湯ホースのナットにパッキンが入っていることをご確認のうえ、立水栓用逆止弁・止水栓に「レンチ」などでしっかりと締付けて固定します。
- \* パッキンの入れ忘れにご注意ください。

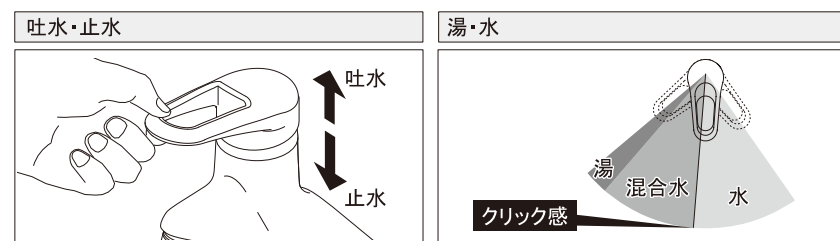
**必ず実行**  
フレキパイプをご使用の場合、接続する配管は確実に固定してください。配管の固定が確実でないと、ウォーターハンマーなどの振動によりフレキパイプが破損する恐れがあります。

## 施工後の確認

- ① 止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認をします。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉め、漏水する箇所をやり直してください。
- ② ハンドルを中央位置で上げて左右にまわし、湯水の混合具合をご確認ください。低温しか出ない、または高温しか出ない場合は、「こんな時には…簡単な点検と対処」を参考に調節を行ってください。

## 使用方法

### ハンドルの操作方法



ハンドルを上げると「吐水」、下げると「止水」  
ハンドルを上げた状態で真ん中より左にまわすと「湯」、右にまわすと「水」が出ます。

\* 水から混合水に変わる時、クリック感があります。

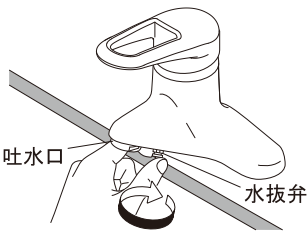
- 必ず実行**
- 湯を使用する際は、必ずハンドルを水側から開栓してください。その後ゆっくり湯側へまわし、お好みの温度に調節してください。湯側を先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。
  - ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 注意**
- ハンドルを操作する際は、ハンドルと本体の間に指などを挟まないようにご注意ください。

# 凍結防止方法

## 寒冷地用の水抜き方法

凍結の恐れがある場合は、使用後水抜きを行ってください。

- ①配管の水抜き弁を操作して、水が出ないようにします。
- ②ハンドルを中央位置で上げ、吐水状態にします。
- ③吐水口下部の水抜き弁を外し、水を抜きます。  
\* 水抜き弁は水抜き以外の目的で開けないでください。
- ④ハンドルを湯側いっぱい上げて、水を抜きます。
- ⑤吐水口から水が出なくなったら、水側いっぱい上げて水を抜きます。  
\* 水抜き後は必ずゆるめた箇所を元に戻してください。  
\* 水栓に解氷機は絶対に使用しないでください。



**注意** 水抜きをされる際は、吐水口や混合栓本体が熱くなっていたり、高温の湯が出てくる恐れがありますのでご注意ください。やけどの恐れがあります。

## 一般地用の凍結防止方法

凍結の恐れがある場合は、下記の予防を行ってください。

凍結の恐れがある場合は、水栓周囲の温度が0℃以下にならないようにしてください。なお、0℃以下になる場合は、以下のような方法で予防をしてください。

- 配管を保温する。
- 水栓から水を少量出しておく。(目安として1分間に牛乳ビン1本分程度)
- \*凍結により破損した場合は、保証期間内でも無償修理の対象外となります。



# お手入れのしかた

## 泡沫内芯のお掃除



最初お使いになっていた時より著しく水の出が悪くなった場合は、泡沫内芯を外して、ゴミなどの異物をブラシなどで水洗いして取除いてください。

## 器具のお手入れ

いつまでも美しくご使用いただくために。

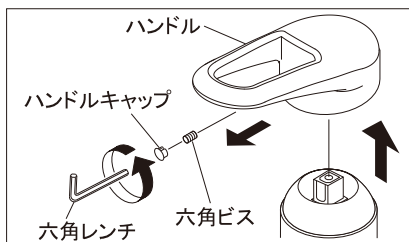


- 水栓器具の金属部  
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいてください。
- 水栓器具のプラスチック部・塗装面  
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭き取ってください。

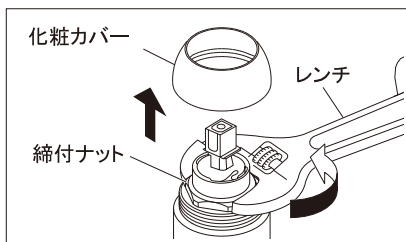
**注意** 金属たわしやクレンザー・みがき粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

## カートリッジの交換方法

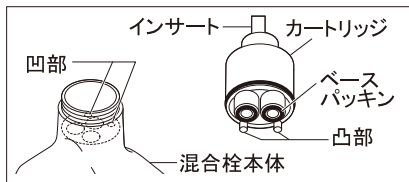
\*作業前に、必ず止水栓または元栓を開けて止水してください。



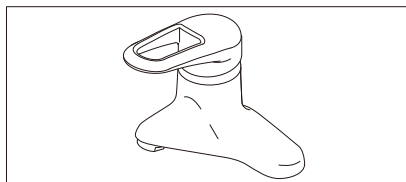
- ①ハンドルキャップを外します。付属の「六角レンチ」で六角ビスをゆるめ、ハンドルを上へ取外します。  
\*六角ビスはなくさないようにしてください。



- ②化粧カバーを左にまわして取外します。締付ナットに「レンチ」などをかけ、左にまわして取外します。



- ③古いカートリッジを抜き取り、新しいカートリッジの底にベースパッキンがついているのをご確認のうえ、底の凸部が混合栓本体の凹部に合うように差込んでください。



- ④①～②の逆の手順で組直してください。

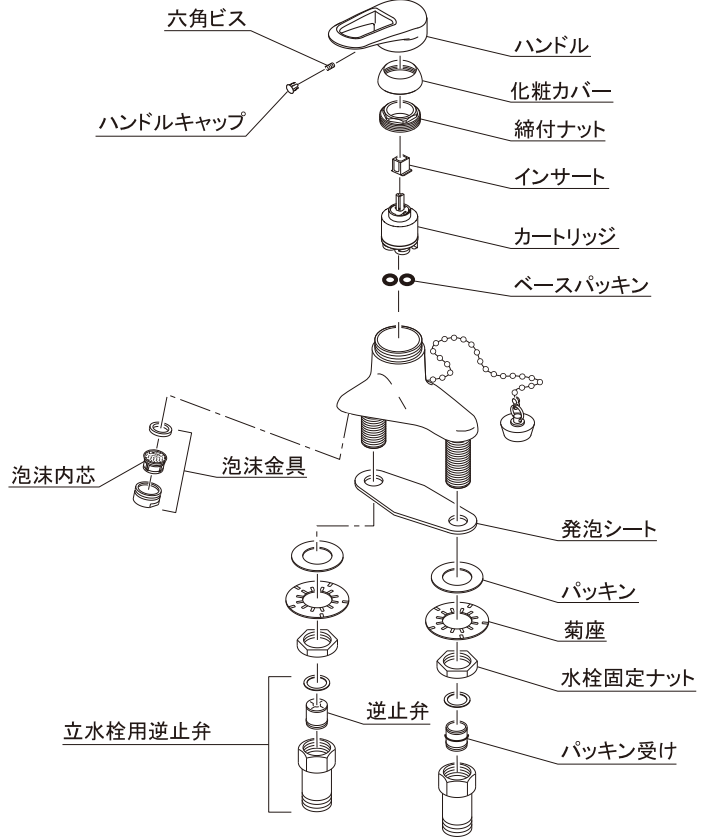
\*作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

**取付時の注意**

- ハンドル内にインサートが残っている場合は、インサートを取外してください。
- カートリッジ底にベースパッキンがあることをご確認ください。
- カートリッジ底の凸部を混合栓本体の凹部に合わせてください。
- 締付ナットは適度な力で締付けてください。(締付けすぎるとハンドルが操作しづらくなります。)

# 分解図

185-101



\*表記イラストは代表品番です。品番によっては図と製品の形状が一部異なります。  
\*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

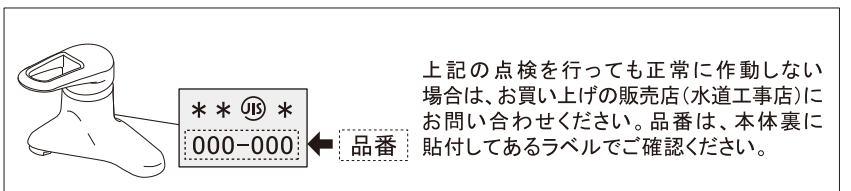
## こんな時には…簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、修理を依頼される前に「分解図」を参考に次の要領で点検を行ってください。

現象	原因	対処のしかた	
温度調整不良	高温しか出ない	●水側の止水栓が閉まっている ●給水圧より給湯圧の方が高い	●水側の止水栓を調節する ●止水栓を調節する
	低温しか出ない	●湯側の止水栓が閉まっている ●給湯圧より給水圧の方が高い ●給湯機の能力(給湯機の異常)	●湯側の止水栓を調節する ●水側の止水栓を調節する ●別紙「安全上のご注意」の「使用条件」をご参照ください。
吐水不良	吐水量が少ない	●湯・水側の止水栓が閉まっている ●泡沫内芯の目詰まり	●適正水量になるまで止水栓を開く ●泡沫内芯を掃除する
	全く吐水しない	●本体に湯・水がきていない ●湯・水側の止水栓が閉まっている	●湯・水の元栓を開く ●適正水量になるまで止水栓を開く
止水不良	止水できない	●カートリッジの異常 ●ハンドル下より漏水	●カートリッジを交換する ●締付ナットを締める
	ハンドル下より漏水	●カートリッジの異常	●カートリッジを交換する
操作しづらい	●ハンドルのガタつき	●付属の「六角レンチ」でハンドルの六角ビスを締直す	
ハンドルがかたい	●締付ナットの締めすぎ	●締付ナットを適度な力で締直す	
	●カートリッジの異常	●カートリッジを交換する	

**分解禁止** 本体内蔵のカートリッジや部品などは、絶対に分解しないでください。故障の原因となります。

## 修理を依頼されるときは



本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124

東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611  
広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371

0420GF

M-A9976B

無断転載・複写を禁ず